

令和4年度第1回三重県教育改革推進会議（令和4年8月3日）の意見概要

○ 全体事項

＜構成＞

- ・現行「三重県教育ビジョン」の「教育ビジョンに込める想い」のように、保護者、地域の方々、県民の皆さんに伝えるメッセージが必要ではないか。
- ・教育ビジョンに位置づけた取組を進めることで、子どもたちがどのように変わるのかを示すべきではないか。
- ・KPIを設けるのであれば、どのような取組でKPIを達成するのか、KPIの達成がどのようなビジョンの実現につながるのかをわかりやすくすべきではないか。

＜情報発信＞

- ・教育ビジョンの内容を、保護者や子どもたちにとってわかりやすく伝えるようにすべきではないか。

○ 個別事項

＜多様性＞

- ・ジェンダーの問題は学校教育の領域でも大きな問題であることから、記載すべきではないか。

＜デジタル化＞

- ・オンラインゲーム、SNS、子育てアプリなど、デジタル環境が急速に変化する中、どのように利活用していくのかという視点を大事にする必要があるのではないか。
- ・ICT環境の整備について、地域間の格差があると聞いており、県民の力を結集して教育に取り組んでいくことをふまえ、格差が生じないようにすべきではないか。

＜グローバル化＞

- ・最近の国際情勢などについて、子どもたちが一面的な見方をしていないかが気になっており、国際情勢と身の回りのつながりを関連づけて考える視点が必要ではないか。

＜家庭・地域＞

- ・中学校や高校の現場では、地域の企業と協力し、職場体験や仮想的に会社をつくる取組などが既に進められているので、こうした取組をさらに広げてい

くべきではないか。

- ・課題に対し、家庭、地域、外部団体等と協力して対応することが必要ではないか。

<教育格差>

- ・教育の格差について、家庭的な背景の格差だけでなく、地域の格差についても記載すべきではないか。

<教職員を取り巻く環境>

- ・学校と地域と家庭の三者が一緒になって進めていくことは、地域の教育力の向上につながるとともに、学校の働き方改革を進める観点からも重要ではないか。
- ・学校の負担が過重であり、学校でしかできないことや地域や家庭の協力を得て行うことという視点で考えるべきではないか。
- ・教員の仕事は魅力的であるということを発信していくべきではないか。
- ・基本方針について、教員にとって働きがいのある学校にしていくという内容のものが必要ではないか。

<教育改革>

- ・社会の変化が常態化した中で必要な学びは、公式から解を得るような学びではない。全国学力調査の出題傾向が変化していることもその表れであり、そういう危機感が読み取れるものにするべきではないか。
- ・公共の授業が始まり、投資やライフプランなど子どもたちが学ぶ内容が変わっており、円安などで生活にも影響が出るなど社会自体も変化していることをふまえ、経済に関する記載が必要ではないか。

<新型コロナウイルス感染症の影響>

- ・新型コロナウイルス感染症に対する偏見・差別をなくすよう、子どもたちが主体的に取り組んだことをふまえ、今後、人権教育の視点が今まで以上に大切ではないか。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、他者の表情がわからなかったり行動制限が行われたりするなど、対人関係をうまくつくる力をつけることができていることも不登校が増えている要因と考えられ、対人関係をうまくつくる力を育む機会をつくる必要があるではないか。

<その他>

- ・数年先の動きを読むことは難しく、臨機応変な対応が可能となるよう、記載すべきではないか。